



Face to Face

NO.10

特定非営利活動法人TICO

ザンビアスタディツアー



村の教育事情



ルサカ地域警察救急救助隊



<主な記事>

- ・ 「医療法人というNPO」の本来の役割について
- ・ カルブウェ地区菜園プロジェクト
- ・ チベンビプロジェクト情報
- ・ ザンビアスタディツアー
- ・ ルサカ地域警察救急救助隊のその後
- ・ チャリティコンサート開催のお知らせ

ティコ
TICOは保健・医療・農村開発などの分野を中心にアフリカ・ザンビア共和国で支援活動を行っている NGO（非政府組織）です。世界の中の日本を考え、それぞれが自分にできる国際協力を実践していくために 1993 年に任意団体として設立、2004 年 9 月に特定非営利活動法人（NPO 法人）となり活動を続けています。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々と分かち合い、私たちの生活を振り返るとともに地域の精神文化の高揚に寄与することを目的としています。

「医療法人という NPO」の本来の役割について

吉田 修

今回はさくら診療所の院長の立場から考えたい。

多くの医院、診療所、病院は、医療法人として運営されている。医療法人は、言うまでもなく、利益を追求するものではなく、良い医療を提供するための地域住民のための組織である。まさに non-profit organization = NPO である。しかし現実、院長のファミリーに理事報酬を支払い所得税を分散する節税のための法人化だったりする。本来の NPO としての役割に徹するべきであるのは当然である。

地域住民のための NPO といったが、このグローバルな時代、もっと視野を広げ「人類の健康のための NPO」に脱皮する医療法人があってもいいと私は考えている。ザンビアの平均寿命が日本人の半分に足りないことはこれまで度々紹介してきた。この格差はますます開いている。医療に携わるものとして、この惨状を見過ごすわけにはいかない。

こんな医療法人を目指したい。

1) 地域医療に貢献する。

- * 24時間365日、急患に対応する。
- * 入院、在宅、終末期医療、様々な検査、予防医学、健康教室、リハビリ、伝統医療、介護保険など幅広く地域住民のニーズに対応する。

2) 国際貢献する。

- * 僻地の医師不足解消に協力する。
- * TICO と連携し、スタッフのローテーションで国際協力に参加する体制をつくる。
- * 収入の1%程度を国際協力のために寄付する。言い換えるとスタッフは100日に1日だけ国際協力のためにボランティアワークをする。
- * 研修員、学生を受け入れる。

3) 環境に配慮する。

- * 省エネルギー、ゴミの減量
- * 代替エネルギー(太陽光発電、薪ストーブなど)の活用
- * 廃油石鹸、生ゴミの再利用など

4) 有機農業を推進する。

- * 地域の有機農家と協力し安全な農産物をできるだけ使用する。
- * 安全な食品を紹介する。
- * フェアトレード商品を利用する。

医療の垣根を越え、国境を越え、長期的な視点に立って、人類の健康のため幅広く活動する使命を持ったチャレンジングな NPO に育ってゆきたい。やっと始まったばかりである。

WAHE プロジェクト通信

WAHE (ワヘ) とは？

Water(水)、Agriculture(農業)、Health(健康)、Education(教育)の領域をカバーしながら農村の生活水準向上を狙う TICO のプロジェクト。TICO は 2002 年ザンビア南部州にて飢餓緊急援助を行なったがそこで得た教訓とは「緊急援助の限界」と「飢餓をなくす為には農村に根本的対策が必要」との認識だった。いくつかの候補地から安全性や信頼できるパートナーの存在等の観点から支援地域をチペンビとカルブウェに決定した。



TICO ザンビア事務所 西口三千恵

Chipemba

中央州チペンビ地区

中央州カルブウェ地区

Karubwe

ザンビア共和国

カルブウェ

菜園プロジェクト

ザンビア在住日本人向けに栽培している野菜が好調。しかし、農園の倉庫に使っているコンテナの鍵が紛失。水戸ガールスカウトから送られた古着を受取大喜び。

7月7日(金)

菜園に水が流れていない！？どうやら井戸のモーターが動いていない様子。モーターを設置した業者に連絡するが、技術者が全員出払って来週まで待ってくれといわれる。

すぐに直る故障だといいいのだが。

7月14日(金)

菜園が始まって一年。そろそろ自分たちで肥料を購入して欲しいと、以前から伝えてきたが、最後にもう



一度だけ肥料を支援して欲しいとリクエストされる。確かに肥料は高額。リクエストの一部を支援。残りは自分たちで購入するよう伝える。

7月20日(木)

日本人ユニットの売り上げを引き渡し。よく働いてくれたメンバーには特別手当を渡す。働けばそれだけ収入があることを学んで欲しい。畑は玉ねぎが順調。日本人ユニットの春菊も恐ろしいほどに成長している。



8月3日(木)

乾季に入り、畑は水の管理が重要になるが、灌漑施設の管理が徹底されておらず、畑のでは、水が一度も回ってきていない部分も。効率的に灌漑設備を使うための対策が必要。

8月18日(金)

肥料や農機具が保管されているコンテナの鍵が盗まれたとの事。以前の菜園詰め所の盗難事件や今回の鍵紛失事件など、メンバーの責任感やモラルが疑われる出来事が続く。鍵の管理や警備体制についてメンバーで話し合うよう伝える。

8月22日(火)

盗難にあったコンテナの鍵を取り外し、盗難被害の有無確認するために訪問。幸い盗まれた物は無い様子。新しい鍵を取り付け、今後の鍵の管理体制が話し合われるまで、鍵はTICOで預かっておくことに。

8月24日(木)

コンテナの鍵はリーダーのケニスが保管することに。畑作業は順調。秋に向けてオクラやカリフラワーを植える準備が進められている。

9月1日(金)

ドリップイリゲーションを導入して1年。メンバーのやる気にもかげりが見えることから、活動の目的の再確認、現状の改善をするべくワークショップの開催を提案。

9月8日(金)

女性メンバーのみでワークショップを実施。メンバー間で菜園の運営に関し、様々な勘違いがあることが判明。またメンバー間での連携・協力体制が十分でないことも分かった。



ワークショップ終了後、水戸ガールスカウトから送られた古着を分けると、女性たちは踊って唄って大喜び！



9月9日(土)

本日は男性メンバーのみでワークショップを実施。やはりメンバー同士の連携、グループのありかた自体に問題があることが再認識された。終了後は、水戸ガールスカウトから送られた古着を配布。



チペンビ

・農村開発ローン



小規模農村開発ローン

牛肉販売は進展なし。事業中止か？
養豚はベルベットビーンズを餌に子豚が順調に成長。

7月5日(水)

養豚。JICA PaViDIA の日本人専門家が養豚事業の見学に来られた。養豚メンバーが自主的に始めたヤギ

小屋建設現場で、メンバーから専門家の方々に、

「PaViDIA デモファームにいる改良品種のヤギを支援下さい」発言に冷や汗をかく。

最後に、以前 PaViDIA サイトのタックショップでトレーニングを受けさせて頂いたカリケンカ・タックショップを訪問。買出しするのにさらにローンをくれといわれ、「自分たちで何とかしろ！」と1ヶ月近く放っておいたのだが、なんと品物の買出しがされている上に、自主的にピーナッツバターの販売を開始していた！



7月12日(水)

養豚。産まれた子豚 22 匹中 2 匹が死んだものの、残りの 20 匹は順調に成長。豚舎の床のコンクリートの作りが雑だったためか、穴ぼこだらけ。補修が必要。



カリケンカ・タックショップ。今日も買出しがされていて、商品がたくさん並んでいる！帳簿は6月下旬から記録がなく、まだまだ問題はあがあるが、回復の兆しが見えてきたか。



カサカ・タックショップ。 買出し順調、客足順調。店番もメンバーのローテーションで順調にこなす。今の所問題なし！



チティベ・古着販売。 店は無人。店の屋根の修理が終わっていないらしく、訪問販売を続けているとのこと。しかし、月報を見ると売り上げが落ちてきている。心配。

牛肉販売。 牛が買えないから古着販売をしたいのに、TICO は支援してくれない、と非難がましく言うてくるメンバーたち。再度ローンの変更はできないことを伝える。どうなるか。

7月19日(水)

養豚。 豚舎の床補修用のセメントを先週購入していたにもかかわらず、補修が全くすすんでいない。メンバーのモチベーションが低下？早速ミーティングを開き、喝を入れる。



チティベ。 店で女性2人が待っていてくれた。が、屋根の補修はされていない。今週中には補修するらしい・・・？

カサカ。 順調。養鶏の時代から今まで、一度も利益をメンバーで分けたことがないとのこと。次回メンバー全員がいるときに確認したい。

8月2日(水)

養豚。 豚舎の床整備がやっと終了。子豚たちもだいぶ大きくなり、そろそろマーケティングを開始することのこと。



カサカ。 活動開始以来、メンバーに利益配分をしていない理由を聞くと、早くローンを返済したいから、とのこと。メンバーの総意であるなら、問題なし。



チティベ。 ローン返済を待って欲しいとのこと。ローンは待つので、まだ修理ができていない店の屋根を雨季が始まる前に早急に直すよう伝える。

カリケンカ。 店番のローテーションがきちんと行われ、品物の在庫も十分。店の売り上げも徐々に回復している。



8月23日(水)

養豚。 ベルベットビーンズを配合した飼料を二匹の子豚に与え始めたとのこと。効果のほどが楽しみ。

カサカ。 売り上げ好調。既存の店が手狭な上に、教会の建物を借りているため、自分たちの店を建設する計画が進行中。

チティベ。 店の外壁が塗装され、「チティベ女性グループ古着販売

店」の文字まで書かれている！このグループは少しずつ物事が進む。こちらも焦らず気長に見ることが大切のようだ。

カリケンカ。 なんとメンバー総出でお出迎え。売り上げも少しずつ回復している様子。



8月30日(水)

養豚。 ベルベットビーンズを与えられている二匹の子豚も問題なく元気に成長している。養豚メンバーに水戸ガールスカウトから送られた古着を配布。



カリケンカ。 店番がいつもおばちゃんに戻っている。ローテーションができていない。店の品物も少なくなってきた。最近持ち直してきたと思っていたがそうでもない様子・・・。

カサカ。 カリケンカとは対照的に順調。メンバーに水戸ガールスカウトから送られた古着を配布する。



9月6日(水)

養豚。 残りの豚舎の屋根が完成。あとは床の整地と壁の塗装。

チティバ。本日ローン返済日。20万クワチャ受け取り、残りはあと5万クワチャのみ！



カサカ。本日ローン返済日。早くローンを返済したいということで、なんと2回分まとめて40万クワチャが返済された。

9月13日(水)

養豚。やっと豚舎2室が完成し、残り2室。ベルベットピーズを与えている子豚2匹も順調。



チティバ。水戸ガールスカウトから送られた古着を配布。雨季が始まる前に屋根を直し、商売を始めるようアドバイスした。



カサカ。品物も豊富、店番もメンバーが交代できちんと行っている。新しい店舗建設予定地がほぼ確定。自分たちで少しずつ建設を進めるとのこと。



アグロフォレストリー

新たな事業展開に向けた助成金を申請中だが、果たしてどうなることか。

7月19日(水)

今年助成金が取れるかはまだ不明だが、助成金獲得までに行う内容を詰めるため、クムウエンダ氏に会う。

8月30日(水)

TICO から古いパソコンをチペンビ農業大学に寄付。



9月6日(水)

種の予算が承認されたので、ワークショップに関して打ち合わせ。



9月13日(水)

2005～06年のアグロフォレストリープロジェクトの評価と、2006～07年にかけてのプロジェクト計画についての説明を実施。

ディップタンク(牛の薬浴)

薬浴に来る牛の数が減少。ワークショップも行われていない様子。これからどうする？

7月19日(水)

ディップ数が確実に落ちているし、5月にワークショップをやると言ったきり何もしていない。新たにディップ用の穴を掘ったから見て欲しいと言われた。既存のディップタンクが順調にいいっていないのに新たな支援はできないと伝えた。とりあえず、掘られた穴は視察。



地球人カレッジ報告

ジャワ島地震報告

～地震災害とNGOの活躍～ (7月22日)

国際的災害支援に活躍するジャパン・プラットフォームより、5月の終わりにインドネシア・ジャワ島で起こった地震の支援調査協力の依頼があり、TICOは会員である田淵俊次医師を派遣しました。

田淵さんにジャワ島地震の災害支援の現状やジャパン・プラットフォームについて話していただきました。

ザンビアの村に健康を

TICO 新プロジェクト始動 (9月16日)

TICO がザンビアの農村で進めている“干ばつに強い村づくり”の一環としてまもなく開始予定の『ザンビア農村地域プライマリーヘルスケア・プロジェクト』の概要について話していただきました。

※次回の地球人カレッジは10月28日の予定です。

憧れのアフリカにとうとう行ってきた。20年以上になるだろうか？アフリカの飢餓の子どもたちをテレビで見たのは。あれから、なにかできないかと模索し、いろいろな経験をし、ようやく今年のアフリカ行きが実現した。1年前から、職場などで準備し、職場の人たちの協力を得て、さらに TICO のスタッフにも配慮していたのでスタディツアーの参加となった。まず、協力してくださった方々に深く感謝する。

実質、ザンビア滞在はたった5日間であったが、プログラムは西口さん・江橋さんがかなり考えてくださり、とても有意義なものだった。「感想を」と聞かれると、『ああ楽しかった！！』と笑顔で、すべてを表現できる。そのぐらい、とても楽しかったのだ。

まず、チベンビでは、小規模ローン・牛糞浴槽再利用・アグロフォレストリーの各プロジェクトを視察、その夜は、小規模ローンプロジェクトでタックショップを行っているメンバーの家にホームステイさせて頂いた。タックショップは、利益が上がるのかと心配なところもあるが、村人たちが個々で、町まで買い出しに行く交通費・時間・労力を考えるとそれだけでもとても存在意義は大きいと思った。メンバーが、そういう意味でもやりがい・誇りをもてるといいなと思う。有効に人々に利用されることを期待する。

得意そうにピーナッツバターを作る機械を実演しているザンビア人は印象的で、とても素直でかわいいと思った。また、歌と踊りの歓迎を受け、どこか、さめて生活している私の忘れていた感覚かなと思った。

ホームステイでは、村の生活の一部を体験することができ、人が自然の一部であることを感じた。便利さに慣れてしまった私には、この生活を毎日することは、きつくてできないだろうと思った。村でいただいたとうもろこしの粉で作る『シマ』というザンビア料理はおいしかった。作り方は違うが、グアテマラのトルティーヤを思い出した。また、塩味の煮豆もグアテマラのものに似て

いた。第二のふるさとであるグアテマラの懐かしさがふつふつと湧いてきた。

ンゴンベ貧困地区民生改善プロジェクト視察では、洋裁教室の見学をした。『お裁縫』ということばさえ忘れていた私には、6ヶ月でこんなに素晴らしい作品ができるのかと驚いた。身につけた技術を生かせる場所・機会の提供が、今後の課題のようである。何かいい案がある方は、提案して欲しいと思う。また、中国の安い製品が入ってこないことを願う。

未計画居住区（コンパウンド）での JICA のプライマリーヘルスケアプロジェクトの視察は、私の仕事に関係しているのでとても興味深い分野だった。ヘルスポストに多くの子どもたちが来ていた。来ている子どもたちは、まだ元気だ。もっと医療を必要としている子は、来ていない、いや来ることができないのだと思う。そう思うと心が痛む。子どもは、元気で笑顔でいて欲しい。それは、どこの国であろうと、どのような親の元で育とうと誰しもが願うことではないだろうか。子どもの権利を考え、守るよう私たちはもっと行動しなくてはならないのではないかなと思わされる。自分のできることを考え、できることから始めていきたいと思った。

ザンビアから帰ってきたら、旅行疲れがあるかと思っただが、反対にとっても元気になった。これは、きっとアフリカの大地のエネルギーとザンビア人の生きる力をいただいたのだと感じている。元気になりたい人、もっと元気をもらいたい人は、ザンビアをお勧めする。

最後に、TICO のスタッフの地道な活動が現地の人との信頼関係を築き、このツアーが実現できたのだと思う。TICO スタッフに感謝し、今後も支援させていただこうと思っている。



セカンドハンドが TICO と交流

昨年に引き続き、高松の NGO ・セカンドハンドのメンバーが8月5日・6日の2日間、TICO 事務局にやってきました。5日の午後はさくら診療所の駐車場でバザーを行い、夕方には、バーベキューでお互いのメンバー同士が交流をはかりました。



今回のこの企画は、セカンドハンドが主催するカンボジアスタディツアー出発前の事前研修も兼ねており、1日目の夜は、TICO 吉田代表による国際協力講座が開かれ、2日目には徳島大学の饗庭先生の講義も行われるなど、濃厚な2日間となりました。

日本外国語専門学校生が訪問

7月18日から21日にかけて、東京にある日本外国語専門学校国際ボランティア科の学生12名がTICOで研修を受けるために徳島を訪れました。連日あいにくの雨模様



でしたが、田植えや野菜の収穫などの農業体験、TICO スタッフによる国際協力講座の他、小規模作業所あおぎワークホームでの藍染め体験、元気やまかわネットワークの事務所を訪れた際には、あいまに阿波踊りの踊り方を教わるなど、国際協力と徳島を満喫した4日間となりました。参加されたみなさん、お疲れ様でした。

TICO 国内活動

(2006年7月1日～9月30日)

<2006年7月>

- 3日 愛媛大学国際協力論へ講師派遣(福土事務局長、五十嵐夫妻)
- 4日 甲南大学(神戸)へ国際理解講座講師派遣(吉田修代表、五十嵐夫妻)
- 12日 北島中学校へ講師派遣(吉田修代表、福土庸二事務局長、井形和枝会員)
- 18日 鳴門工業高校へ国際理解講座講師派遣(吉田修代表)
- 18日～21日 日本外国語専門学校ボランティア科生徒16名がTICO事務局で合宿国際理解セミナー
- 22日 地球人カレッジ「ジャワ島地震調査報告」(田淵俊次さん)
- 24日 愛媛大学国際協力論へ講師派遣(吉田修代表)
- 30日 五十嵐夫妻 TICO 事務局スタッフとして着任

<2006年8月>

- 5, 6日 セカンドハンド小指会、TICO事務局にてバザー&研修会
- 6日 ザンビアスタディーツアー開始(16日終了)

<2006年9月>

- 1日 TICO ブログ公開開始 <http://ticoftof.exblog.jp/>
- 7日 池田高校へ講師派遣(井形和枝さん)
- 11日 TICO 公用車配備
- 14日 五十嵐仁職員 「災害時サポーター育成・医療通訳制度」の説明会に参加
- 16日 地球人カレッジ「ザンビアの村に健康を」(田淵幸一郎さん)
- 20日 阿波西高校へ講師派遣(五十嵐仁さん・福土庸二事務局長)
- 23日 TICO ザンビア事務所長・西口さん一時帰国
- 23日～25日 四国ユース国際協力合宿セミナー
- 24日 山田耕平さんTICO事務局訪問
- 26日 那賀川中学校へ講師派遣(五十嵐夫妻)

ルサカ救急救助隊のこれまで

五十嵐 仁

最近、機関誌への寄稿はありませんが、TICOのホームページにリンクしたブログでこれまでの活動を詳しく報告させて頂きました。今後も、ブログにできるだけ活動報告をするように心がけていきたいと思います。

さて、今回の報告は、特にルサカにおいて実施されている救急救助隊のこれまでの実績をお知らせしたいと思います。2001年10月にたった1台の救急車ではじめたルサカ救急隊も、2004年そして2005年に神戸市消防局の有志が関わったことで、大きな飛躍を遂げました。技術革新があったと言っても過言ではないと思っています。救急隊が事故現場に到着しても、車内に閉じこめられた怪我人も救出できなければ、尊い命を救うことができません。TICOには救助技術を指導するノウハウが無かったため、神戸市消防局とその有志が作る日本国際救急救助支援会との共同作業で、ルサカの隊員は、閉じこめ事案でもあきらめることなく、怪我人を延命したまま助けることができる体制になりつつあります。そして、その後怪我人は、救急隊へ引き継ぎされシステムティックに救護されるようになってきました。

今のところ、この恩恵を得られるのは、ルサカ市内だけに留まっていますが、このような方法で人命が守れるということを多くのルサカ市民が知ることにより、救急や救助隊を利用するだけでなく、市民自らが人々の命を守るシステムを自立発展するよう応援してほしいと思っています。事実、ルサカの民放テレビ局が救急救助隊の活動を毎週放映して8ヶ月が経ちます。テレビの影響は大きく、民間の会社が定期的に寄付を寄せるようになりました。また、ライオンズクラブやロータリークラブが物品の提供をするなど、日本からの支援に頼った活動から脱皮しつつあります。

2004年の夏からは、TICO は運営費の支援をいったん終了し、支援は、救急車、救助車そして機材などの物的な支援とし、ザンビアの人たちだけの努力で運営が

試みられています。自立した体制で運営され、さらに力をつけ、新しい救急車や機材も購入できるようレベルまで自力で発展させていけることを期待しています。



TICOでは、このような自発性の高い活動へと移行するため、平成18年度の徳島県国際協力県民パートナーシップ事業を通じ、救急隊の隊長をこの10月中旬から来年3月末までの期間、徳島に招き、防災や救急などに関する研修を行い、さらには神戸市消防学校に短期入校し特別な技術を取得するなど、人材育成を実施する予定です。この研修員受入に際しては、徳島大学環境防災研究センターの岡部教授に多大なるご支援を得つつ、実施に向け現在受入体制を整備しつつあります。

今回来日する研修員は、ザンビア警察庁緊急援助隊の隊長で救急隊のフィールドにおけるスーパーバイザー(現場の指揮官)です。厳格な方と 생각이 ちですが、愛嬌があり警察官というよりは、優しいパパという感じです。TICOの現場での良きパートナーの一人なのです。

徳島では、日本の心に触れていただき、災害大国でこれまでに培われた防災手法や緊急時の対応そして地域の災害救援ボランティアがどのように助け合い活動を行うかなど、現場レベルで学ぶことになります。この研修を通じ、是非日本の防災に対する高い意識を身につけて帰国していただきたいと思います。次号で研修員の方について詳しくお知らせします。

ありがとうございました（敬称略）

★寄付をくださった方々★

吉田修 菅原祥恵 北島中学校 鳴門工業高校 大崎訓子 日本外国語専門学校 渡海正則 美馬文子 高木クニ子 ヒラオカ薬局 セカンドハンド 戸井今井公子 脇町高校昭和49年度同窓会 五十嵐仁 寺口美香 那賀川中学校 池見真由 山川中学校 四国ユースネットワーク

★会費を継続して払ってくださった方々★

寺田由紀 井原宏 浮森和美 大西和賀 岡崎明美 岡田理絵 河合栄枝 酒巻栄子 佐古和雄・友美 篠原弘子 鈴木薫 鈴木一城 住友和子 祖父江八重子 田岡敬子 武田律 地造津根子 寺口美香 入交秋子 橋本浩一 濱田公子 廣瀬文代 福井康雄 福井照実 福士庸二 福士美幸 中村純子 傍示桂子 松井美香 六車ハルエ 吉田修 吉見千代 特定非営利活動法人AMDA 木村節子 堀井健司

★新たに会員になってくださった方々★

田淵幸一郎 菅原祥恵 濱田直文 川口慎治 池見真由（2006年7月1日から9月25日までの事務局入金分：順不同）

※お名前を非公開にされたい場合はTICOまでご連絡ください。

ザンビア支援チャリティ

「ヒダノ修一太鼓ソロコンサート 未来の太鼓！」徳島公演

今年もヒダノ修一さんを迎えチャリティコンサートを開催します。

日時：11月26日（日）

13：30開場 14：00開演

場所：大塚ヴェガホール（徳島市川内町）

前売：3,000円 当日：3,500円

チケットのお求めは、ローソンチケット（Lコード：62559）他、ポスター・チラシのあるお店で販売しています。

詳しくはTICO（担当：フクシ）までお問合せください。

収益金はザンビアでの国際協力活動に使わせていただきます。

※10月9日（月・祝）、鎌倉市の大船教会でもチャリティコンサートを行います。



【TICO への入会方法】

会員となって資金面から TICO の活動をサポートして下さるかたを募集しています。入会ご希望の方は郵便振替用紙に所定の年会費を納入して下さい。インターネットの TICO ホームページからも入会申し込みが可能です。会員の方には TICO ニュースレター『Face to Face』を毎月送付いたします。

【正会員】 12,000 円

【賛助会員】 個人：12,000 円 学生：6,000 円
団体：15,000 円

（通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい）

振込先：郵便振替口座 01640-6-37649

振込先加入者名：TICO

Eメールアドレスをお知らせいただいた方にはTICOの各種イベント情報をメールにてご連絡申し上げます。

TICOの活動は皆様からの会費やご寄付によって支えられています。会費の納入がお済みでない会員の方は、納入下さいますようお願いいたします。なお、郵便口座からの「年会費自動引き落とし」もご利用いただけます。事務作業軽減のためにも、ご協力お願いいたします。

お知らせ

●講師派遣

TICO では学校の総合学習の時間などでの国際理解教育、開発教育の講師派遣をおこなっています。お問い合わせはTICO事務局まで。

●ご寄付のお願い

気が向いたときに少しでも寄付したいという方は、下記の口座で寄付を受け付けています。あなたの想いを必ずザンビアまで届けます。

TICOホームページでTICOからの最新情報をご覧ください！！

<http://www.tico.or.jp/>

募金のお願い

TICOのザンビア支援活動は皆様からの寄付金や会費により支えられています（事務局の作業軽減のため領収書は発行していません。必要な方はお申し出下さい）

郵便振替口座：01640-6-37649 振込先加入者名：TICO

四国銀行 山川支店（店番号344）普通預金 0199692

特定非営利活動法人TICO 代表理事 吉田修（トクヒ テイコ）

TICO ニュースレター Face to Face 第10号 2006年10月発行 発行人：吉田 修 編集担当：福士 庸二
【TICO 事務局連絡先】

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川212-6 電話：090-7786-3193 / FAX：0883-42-5527
TICO ホームページ：<http://www.tico.or.jp/> e-mail：zikomo@nmt.ne.jp